

研究課題名	法医剖検例におけるテロメア短縮を利用した病態生理の解明
研究の意義・目的	テロメアはすべての真核生物の染色体末端に存在し、染色体(遺伝子)の安定性を担保している重要な遺伝構造で、染色体のカプセルともいわれています。テロメア長は細胞分裂の際に短縮するため、年齢と共に短くなります。ストレスや病気など様々な生活要因がテロメア長の短縮を促進し、遺伝構造が不安定になるため、細胞の機能低下を引き起こすことが知られています。本研究の目的は、長期薬物乱用や心不全・糖尿病などの中長期に渡るストレスがテロメアに与える影響や細胞の機能低下に至る機序の解明を目指しています。本研究結果により、老化のメカニズムや薬物乱用によるストレスが様々な臓器へ与える影響の解明につながるものと考えています。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2026年3月
研究対象者の範囲	大阪市立大学法医学教室において実施された法医解剖症例が対象です。 (対象期間：2010年1月1日～2025年3月31日)
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	解剖の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：【血液、各組織】 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、画像検査結果】 遺伝情報：【テロメア長に関連する遺伝子】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学大学院医学研究科法医学教室のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学大学院医学研究科法医学教室のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科法医学教室 特任助教 廣川達也
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示をうけ適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業などはありません
研究の成果を公表する方法	国内・国際学会にて研究の成果を報告し、最終的には学術雑誌に論文を投稿します。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科法医学 担当者：廣川 達也 TEL：06-6645-3767 E-mail： legalmed@med.osaka-cu.ac.jp